

- 1 単元名 文章を読んで、自分の考えをもとう  
題材「生き物はつながりの中に」
- 2 目標
  - 説明的文章を読み取って筆者の問いかける内容に関心をもち、それに対する自分の考えをもとう  
としている。 (国語への関心・意欲・態度)
  - 筆者がこの文章を通して考えてもらいたいと願っていることを読み取ることができる。  
(読む能力)
  - 筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、文章の要約と自分の考えの二つのまとまりからなる文  
章を書くことができる。 (書く能力)
- 3 指導上の立場
  - 児童の実態

削除しています。

○題材観

教材「生き物はつながりの中に」は、生き物の特徴をただ一般的に解明するのではなく、ロボットのイヌと本物のイヌを比較しながら解明している点が、本教材の特色の一つである。文章構成は、「問題提起」「問題の解明」「まとめ・筆者の考え」という分かりやすい構成で、児童がこれまでに説明文学習で身につけてきた力を定着させながら、学習できると考えられる。

わたしたち生き物は、時間的・空間的つながりの中において、変化しつつも変わらない自分を持ち続ける存在であるという筆者の考えは、将来を生きる児童にぜひ触れさせたいものである。

○本単元で工夫する点や手立て

領域を有機的に結びつけた関連的な指導（読む・書く）  
説明文教材に、表現活動（書く活動）を取り入れた、単元構想の工夫

- ・自分の考えをもつことができるようにするために、読む活動の中で児童が今持っている知識や経験を引き出すことができるような発問をしたり、ワークシートに自分コーナーを設けたり、児童同士の交流を効果的に取り入れたりしていきたい。
- ・3つのつながりについて、それぞれ本文に書かれていることから、自分の生活につながる具体的な場面を挙げて書き残していくことにより、3次での書く活動に生かしていきたい。
- ・筆者の考えが書かれている最終段落を2次の最後に提示することにより、筆者の願いを新鮮に受け止め、自分の考えをより持ちやすくする。

学びを重ねていくことができるような系統的な指導  
児童に「学び方」「読み方」を意識させ、学んだことが使える力を育てる指導の工夫

- ・第1次では「はじめ」「中1」「中2」「中3」「おわり」という大きな文章構成をとらえ、2次の第5時では意味段落のまとまりや関係を図に表す活動を取り入れる。既習学習を活かして文章構成を把握させたい。

- ・対比的な表現を見つけて読み進めていく既習学習を活かし、本単元でも効果的にワークシートにまとめさせていきたい。
- ・児童は今までに形式段落の要点をつかんだり、意味段落ごとに小見出しをつけたりするなど文章を短くまとめる経験をしてきている。本単元では、文章全体を要約して筆者の考えを踏まえ、自分の考えを書くという活動で文章を短くまとめる力を伸ばしたい。

### 内容のおもしろさとそれを支えている書きぶりのおもしろさの両面を読む学習活動の工夫

- ・イヌ型ロボットと生き物としてのイヌの比較を通して、改めて生き物の特徴に気づくことができるところが、本教材の書きぶりのおもしろさである。導入時に、様々な生き物や生き物でないものの写真を提示し、生き物と生き物でないものをまず認識し、生き物ってなんだろうという疑問や生き物に対する自分なりの考えをもって、本教材の学習に入っていきたい。
- ・内容を具体的に理解することができるよう、書かれている内容を図で示したり、何がどのようにつながっているのかを矢印で示したりする活動を取り入れていきたい。

#### ○授業改善の視点

- ・生き物の特徴という、児童の中で漠然としていると思われることを本教材や自分の経験を通してより具体的にし、生き物である自分について確かな考えをもつことができるようにする授業。

## 4 指導計画（全9時間）

第1次 ①～⑦段落を読んでおおまかな内容をつかみ、学習の見通しをもつ。

第1時 「生き物とは何か」自分なりの考えをもって本教材の①～⑦段落を音読し、感想をもつ。

第2時 本文①～⑦段落を「初め」「中1・中2・中3」「終わり」に分けて内容ごとのまとまりを把握し、学習の見通しをもつ。

第2次 イヌ型ロボットと生き物であるイヌの違いを整理しながら、生き物の特徴を読み取る。

第1時 どんな問題が提起されているのかを読み取る。

第2時 第2～4段落からロボットとイヌの違いを読み取り、外の世界とつながっているという生き物の特徴をまとめる。

第3時 第5段落からロボットとイヌの違いを読み取り、変化・成長しながら一つの個体としてつながっているという生き物の特徴をまとめる。

第4時 第6段落からロボットとイヌの違いを読み取り、過去の生き物とつながっているという生き物の特徴をまとめる。

第5時 文章構成図にまとめながら、3つの生き物の特徴を整理する。

第6時 筆者の考えを理解し自分の考えを持つ。（本時）

第3次 文章の要約と自分の考えの二つのまとまりから成る文章を書き、友達と交流する。

第1時 文章の要約と自分の考えの二つのまとまりから成る文章を書く。

第2時 友達と交流する。

## 5 評価

○筆者の問いかける内容に関心を持ち、それに対する自分の考えをもとうとしている。

（国語への関心・意欲・態度）

○生き物がどんなつながりの中に生きているのかを具体的にとらえ、生き物の特徴としてまとめることができる。

（読む能力）

○筆者の考えを要約し、自分の考えを書いている。

（書く力）

6 本時案 (第2次 第6時)

|  |  |
|--|--|
| 目標   | 筆者の考えを自分の生活経験と結びつけながら理解し、自分の考えをもつことができる。   |
| 学 習 活 動  | 指導・支援に関する配慮事項など  |
| 1. 学習課題を作る。  | <p>○前時までの学習で生き物の特徴を読み取ることができたことを確認し、⑧段落があることを知らせる。</p> <p>○⑧段落の本文を一文ずつ黒板に提示し、一文一文を大切に読めるようにする。</p> <p>○⑧段落には⑦段落までの内容や表現の仕方と違うところがあることを伝え、⑧段落は自分達に向けられた筆者の願いであることに気づくことができるようにする。</p>   |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">筆者の考えを読み取り、自分の考えをもとう。</div> |  |
| 2. 自分はどのようなつながりの中で生きていくか確認する。  | <p>○「身の回りにある水や空気」「大勢の人々や生き物たち」「過去や未来」とのつながりは、前時までに学習した3つのつながりのうち、どのつながりのことなのか考えさせることにより、今までとは違う表現でも具体的にとらえることができるようにする。</p> <p>○第1文～第4文までに書かれているつながりをワークシートの図に書きこむことにより、自分は自分以外のすべてとつながり、つながりの中で生きていることを視覚的にとらえられるようにする。</p> <p>○「あなた以外のすべて・・・」という言葉から、本当にすべてかどうか問いかけ、本文に書かれていなかったものがたくさんあることに気づくことができるよう児童と共に対話する。</p>  |
| 3. 筆者の問いかけに対して自分の考えをもつ。  | <p>○「そう考えると」というつなぎ言葉の意味を踏まえたうえで、筆者の「自分を大切にすることと他を大切にすることは同じだ」という考えについて、本当に同じだと言えるのか自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>○漠然とした考えではなく、確信の持てる考えになるよう、日常生活の中からある場面を取り上げたり、「もし・・・したら」といった仮定的な場面を例にあげたりして考えるよう伝える。</p> <p>○自分の考えを持つことが困難な児童もいると考えられるので、途中で他の児童の考え方を参考にできるように、次のような考え方をしている児童を取り上げて広める。</p> <p>《思考の順序》</p> <p>(1) (もし) 自分が～したら、他は～なる。だから・・・</p> <p>(2) (もし) 自分が～しなかったら、他は～なる。だから・・・</p> <p>(3) (もし) 他を～したら、自分は～なる。だから・・・</p> <p>(4) (もし) 他を～しなかったら、自分は～なる。だから・・・</p> <p>◎筆者の考えについて、生活経験を振り返りながら自分と他との具体的なつながりを思い起こしながら読むことができたか。(読む能力)</p> <p>◎自分の考えをもつことができたか。(関心・意欲・態度)</p> |
| 4. 次時の予告を聞く。   | ○次時の予告をする。   |